

看護職の ワーク・ ライフ・バランス



八甲田山を背に津軽平野を望む青森県黒石市。黒石市国民健康保険黒石病院は、地域医療の拠点である公立病院として住民の健康に大きな責任と役割を担っている。自治体の厳しい財政状況の中でも村田有志院長のリーダーシップの下、看護局や事務部門が一体となり「看護職のワーク・ライフ・バランス（WLB）推進ワークショップ」に参加するなど、看護職が働きやすい職場づくりにまい進している。

「師長から元気になってほしい」

同院はワークショップ参加前から、県内でも他の施設に先駆けて有見短時間正職員制度を整えるなど、職員の仕事のWLBに取組んでいた。ただ、多くの公立病院と同様に、自治体の抱える財政難という課題が病院経営に影を落とし、看護職員の確保やモチベーションに影響を与えていた。「救急を断らない」方針や活発な委員会活動は、地域住民の安心や看護の質に大きく寄与していたが、職員の負担につながる面もあった。そこで2012年度、より良い環境を目指しワークショップ事業への参加を決めた。

ワークショップ事業での取り組みの一つは、種市光子看護局長の「師長から元気になってほしい」との思いから始まった。師長の負担軽減のための聞き取りを行うと「師長はつらい仕事」

現場からのレポート No.33

■病 床 数	290床	【所在地/青森県黒石市】
■入院基本料	7対1	
■看護職員数	正規:160人(看護156人 准4人) 非正規:41人(看護20人 准21人)	
■平均年齢	41.0歳(2012年度)	
■離 職 率	3.8%(2011年度)、5.1%(2012年度)	

「病院の支えが不十分だ」との意見が出た。そこで村田院長の指揮の下、師長の業務負担軽減を目的に管理日直、当直の体制を見直して、当直明けの休暇取得を促進。研修で主任クラスの管理能力を高め、例えば委員会活動で師長の代理を可能にするなど、権限委譲と負担軽減につなげた。師長は時間外手当の対象外だったが、事務部門の協力で規則を見直し、13年4月からは時間外手当が支給されるようになった。

ノー残業デー、タイムスタディで 時間外勤務を削減

時間外勤務の削減に向けて、院長の方針により「ノー残業デー」にも挑戦している。各職員が毎月2回、定時帰宅する日を決めて病棟ごとに一覧化し、互いに声を掛け合いながら取り組んでいる。導入後のアンケートでは「できた」と「できなかった」が約45%ずつだったものの、今後も続けたいとの意見が大多数を占めた。種市局長が「ノー残業デー」はあくまで過程。「時間内で終わる」風土が目標」と語る通り、「できなかった」が多かった病棟でも、「早く帰れる日は帰る」という職員が増えた。

3病棟でタイムスタディを実施し、業務に掛かった時間の分析も行っている。時間外の多かった内科系病棟では記録と申し送りに時間が掛かっていることが、入退院の多い外科系病棟では診察介助が重なっていることなどが明らか

黒石市国民健康保険 黒石病院の場合



院長とワークショップの推進メンバー

になったため、できる部分から業務整理を進めている。このほかにも、看護補助者の増員と早番・遅番勤務の導入なども行った。

2012年度決算は、3年連続で黒字を確保という明るいニュースが、地元紙の紙面を飾った同院。種市局長は「WLBの取り組みは絶対に継続します」と意気込む。院長室に掲げられた基本方針の額には、「病院職員が満足して働ける職場環境の整備」の項目が輝く。この基本方針の実践に向けて、経営者、管理者、職員一丸となった挑戦は続く。

Q&A ナースのはたらく時間・相談窓口

相談 日勤後の勉強会が月2回あり、終了が19時過ぎになることも珍しくありません。日勤一深夜勤の日にあたりと深夜勤入り前にほとんどと休息できませんが、欠席を認められませんか。

回答 本会「看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」では「勤務圏隔を11時間以上空ける」としています。「日勤一深夜勤」のように勤務圏隔が短い勤務は心身の負荷が高く、事故の危険性も高まります。勤務圏隔を空けた勤務編成への変更が望ましいのですが、まずは、勉強会参加を含めた深夜勤入り前の時間外勤務禁止を、看護部としてルール化するよう提案しましょう。

ナースのはたらく時間・相談窓口
hataraku@nurse.or.jp FAX 050-3737-2820